

神戸大学医学部附属病院 広報誌

H20.4.10 NO.5

楠 だより 季刊

発行責任者： 病院長

編集： 神戸大学医学部附属病院広報委員会



今月の花：アマナ

ご紹介

血液学検査について

検査部 迫田 裕之

患者さまから採血された血液（静脈血）は、血液学検査、臨床化学検査、免疫血清検査、腫瘍マーカー等に分けて検査されます。今回は、血液学検査における全検血（CBC）について説明します。

☆採血について

血液は、出血などで体の外へ出ると固まる（凝固する）働きがあり、その働きを止める薬剤（抗凝固剤）の入った試験管に血液を採取して検査をします。採血時に血液が採りにくい患者さま（採血に時間がかかったり、採血量が少量の場合）では、検査結果が正確に出ない可能性があるため、再度取り直しをお願いしています。

☆血液成分について

血液中には、赤血球・白血球・血小板などの細胞成分と血漿（けっしょう）と呼ばれる様々な蛋白質の含まれた液体成

分がありますが、CBCでは細胞成分を検査しています。

☆赤血球について

赤血球には、酸素と炭酸ガスを運搬するヘモグロビンが入っています。赤血球は肺で酸素をとりこみ炭酸ガスを排泄し、血液中から組織に流れていって、そこで組織に酸素を供給し、炭酸ガスを回収します。酸素と炭酸ガス交換能が最大限に発揮できるように両中窪み状の円盤形状となっています。

一定量の赤血球数を測定して多いときは多血症、少ないときは貧血症と呼びます。また、血液中のヘモグロビン（Hb）の濃度や赤血球の大きさ、あるいは赤血球容積割合（ヘマトクリット）も測定します。

☆網赤血球について

網赤血球は、成熟赤血球の前段階（未

熟な赤血球)です。網赤血球数を調べれば、今どれぐらい赤血球が作られようとしているかがわかります。

☆白血球について

白血球は、体外から侵入してきた細菌やウイルスなどを攻撃して、殺菌溶菌処理するなど、生体防御反応に関与しています。従って、白血球数が少ないと身体の抵抗力が弱っていることを示します。白血球が増えていると細菌などに感染している可能性があります。また、白血球には好中球、リンパ球、好酸球、好塩基球などの種類があり、それぞれの増減から、様々な病気との関連がわかることが

あり、分類を百分率(%)で示します。

☆血小板について

血小板は、出血を止める働きがあります。血小板数が減少すると出血しやすく、増加しすぎると血栓ができやすくなります。

以上のように、血液学検査では、身体の中で現在どのように各細胞成分が作られているかを知ることができますし、それ以外にも、色々な病気のヒントを与えてくれる大切な検査です。表に本院の基準値を示します。

C B C 検査の基準値	
項 目	基準値 (健常者)
赤血球数 (R B C)	男 4 1 0 万 ~ 5 3 0 万 / μ l 女 3 8 0 万 ~ 4 8 0 万 / μ l
ヘモグロビン (H b : 血色素)	男 1 3 . 6 ~ 1 7 . 0 g / d l 女 1 1 . 8 ~ 1 5 . 0 g / d l
ヘマトクリット値 (H t : 赤血球容積)	男 3 9 . 0 ~ 5 2 . 0 % 女 3 5 . 0 ~ 4 4 . 5 %
網赤血球数 (R E T)	0 . 5 ~ 1 . 5 %
白血球数 (W B C)	4 0 0 0 ~ 8 5 0 0 / μ l
血小板数 (P L T)	1 3 万 ~ 3 0 万 / μ l

「最新の医療とやさしい環境をあなたに」
をコンセプトに本院は病院敷地内・
全館全面禁煙になっております。



ご案内

美容外科開設

診療科長 准教授 一瀬 晃洋

美容外科開設のご挨拶

本院では、平成19年10月1日より新しい診療科として美容外科を設置致しました。その目的は、抗加齢（アンチエイジング）医療の一分野としての美容外科を設置することにより、社会のニーズに応じた美容医療を積極的に展開し、豊かな社会生活の実現に寄与することです。欧米では美容外科は抗加齢医療の一分野として社会に認知されており、特別な人のみが受ける治療ではありません。日本においてもこの概念を社会に広めて、高齢化社会において充実した社会生活の実現に貢献するのが私たちの使命です。皆様の受診をスタッフ一同お待ちしております。

診療内容の概要

診療の中心は主に体表面の抗加齢外科（アンチエイジング）手術ですが、その他の美容医療のご相談も承っております。科学的根拠に基づいた美容医療の実践を行うと同時に、美容医療の正しい情報を患者様に提供することに努めて参ります。まずはご相談下さい。

※当診療科は保険診療対象外の診療施設です。

①シワ、タルミなど老化による顔面・体の変形の修正手術に関するご相談
例. フェイスリフト（ほほ、ひたい、

首）、脂肪注入、まぶたのシワ取り、体のタルミ取り・脂肪吸引など

②顔面・体・四肢の審美外科手術全般のご相談

例. 二重まぶた手術、鼻の形成術、顔面骨切り術、バスの手術、体・手足の脂肪吸引など

③レーザー・薬剤などによる皮膚の若返り治療のご相談

例. 肌診断、レーザー・薬剤（内服、外用）による肌の若返り、コラーゲン・ヒアルロン酸・ボツリヌス菌毒素（ボトックス）による眉間・ひたい・こめかみ・眼の下・ほうれい線・口周り・首の若返り治療など

④傷あとの修正などの相談

例. 傷あとや体表面の変形の修正、いれずみ除去希望など

受診のご案内

※完全予約制です。

- ・一瀬（月曜午後、木曜午前・午後）
- ・杉本（火曜午前、金曜午前）
- ・乳房外来（金曜午後）

初診予約受付

078-382-5111（代表）

（AM8:30～PM3:00、土日・祝日・年末年始を除く）

食事療法について 「何を、どれだけ、どのように食べたらいいの？」

栄養管理部 戸田 明代

1. 「食べること」の大切さ

現在の私たちの食生活は、いつでも、どこでもいろいろな食べ物を味わうことができ、食習慣と関係の深い高血圧、糖尿病、肥満、脂質代謝異常（高脂血症）などの病気が増加しています。

昔から、食事は人と人とのコミュニケーションの場となり、お正月や節句などの行事では文化的な役割も持ちます。食べることは、楽しみのひとつであり、生活を豊かにするものです。食べ物から体に必要な栄養素を摂って、よい栄養状態を保ち心身共に健康な生活を送ることを目指しましょう。

病気の予防や治療には、薬や運動をはじめとしていろいろな方法がありますが、いずれも適切な食事を摂ることでその効果が上がります。健康診断や診察などで「食事療法をしましょう」と先生からお話があった場合、まず、ご自身の体の状態と食生活の関係を知らせていただき、なぜ食生活を見直す必要があるのか理解することが大切です。

2. 「何を食べたらいいの？」

体に必要な栄養素は、その働きによって①からだを動かすエネルギーになるもの（炭水化物、脂質）②からだ（筋肉、血液）をつくるもの（たんぱく質）③からだの調子を整える（体温調節などから

だの状態を一定に保つ）もの（ミネラル、ビタミン）の大きく3つに分かれます。では食べ物をこれらの栄養素で分類してみましょう。

*炭水化物を多く含む食べ物



米・パン・めん類などの主食、いも類、くだもの類、砂糖、菓子類

*たんぱく質を多く含む食べ物



肉類、魚介類、

大豆・豆腐類、卵類などの主菜、牛乳類

*脂質を多く含む食べ物

調理用の油脂類（サラダ油、マヨネーズ、バター、ナッツ類など）

*ビタミン・ミネラル、食物繊維を多く含む食べ物

野菜、海藻、きのこ、こんにゃくなどの副菜、やくだもの類など



これらの栄養素は、どれも大切で体の中ではお互いに影響しあって働いています。これだけ食べていけば病気の予防や治療ができるという魔法のような食べ物は残念ながらありません。

3. 「どれだけ食べたらいいの？」

1日に必要な栄養素（エネルギー、たんぱく質、脂質、ビタミン・ミネラルなど）の量は、年齢、性別、体格（身長・体重）、活動量（仕事内容や運動量）、病気の状態などにより異なります。

実際には、まず、主治医の先生が患者さまの状態にあわせて処方されます。それに基づいて管理栄養士と患者さまで（今までの食生活状況、嗜好などをお伺いした上で）具体的な1日の食べ物の量や料理の組み合わせ（献立）を作っていきます。

4. 「どのように食べたらいいの？」

例えば肥満、高血圧、糖尿病、脂質代謝異常（高脂血症）などの生活習慣病を予防するための一般的な食生活の注意点は……

- * 1日の食事量（エネルギー）を3食に分けて食べましょう。
- * 毎食（朝、昼、夕）、主食、主菜、副菜をそろえて食べることを意識しましょう。



- * 適量の油を摂りましょう。
- * 牛乳、くだものは1日の中で忘れず摂りましょう。
- * 菓子、アルコールなどの嗜好品は、主治医の先生の許可を得ましょう。
- * 薄味に慣れましょう。
- * よくかんでゆっくり食べましょう。
- * 外食は、メニューの選択や組み合わせなどに注意して利用しましょう。



食事療法についての情報は、テレビやインターネットや本などで知ることができますが、治療方法や食生活の環境がひとりひとり違いますので、ご自身に合った具体的な内容や方法を見つけて実践されることが大切です。それには、是非栄養相談をご利用ください。

5. 栄養相談のご案内

栄養相談のご利用は、まず主治医の先生、看護師、管理栄養士に気軽にお申し出ください。入院・外来いずれの場合も予約制で、9:30~17:00（月～金曜日）に外来棟2階の栄養相談室で行っています。長年の食生活を改善していくことは簡単なことではないかもしれませんが、管理栄養士と一緒に、ご自身ができそうな内容や方法を見つけて少し



ずつ食事療法をはじめてみませんか？ご家族も一緒に受けていただければご家族の食生活の見直しにも繋がると思います。

栄養相談が患者さまやご家族に健康な食生活を送っていただく支えになること

を願っています。



患者さまへ

初診に係る特別料金について

病院長

本院は地域の病院や診療所との機能分担の推進を図る観点から、他の保険医療機関等からの紹介状なしに本院を受診される場合には、自己の選択に係るものとして、初診に係る特別の料金を負担していただくこととなっています。

ついては、文書による紹介状をお持ちでない方は、紹介状のある方との初診時の負担額の均衡を図る（紹介状のある方は本院を受診するため、他の保険医療機関等で診察を受け紹介状料等を負担している）ため、**5,250円（自費）**を自己負担していただきますので、ご了承願います。

病院の基本理念

1. 患者中心の医療の実践
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と推進
4. 災害救急医療の拠点活動
5. 医療を通じての国際貢献

お問い合わせ先

中央受付③番窓口までお申し出下さい。

診療時間

■ 初診受付

午前8時30分～午前11時00分

■ 再診受付

午前8時30分～午前11時00分

■ 診療開始時間

午前8時30分(初診・再診)

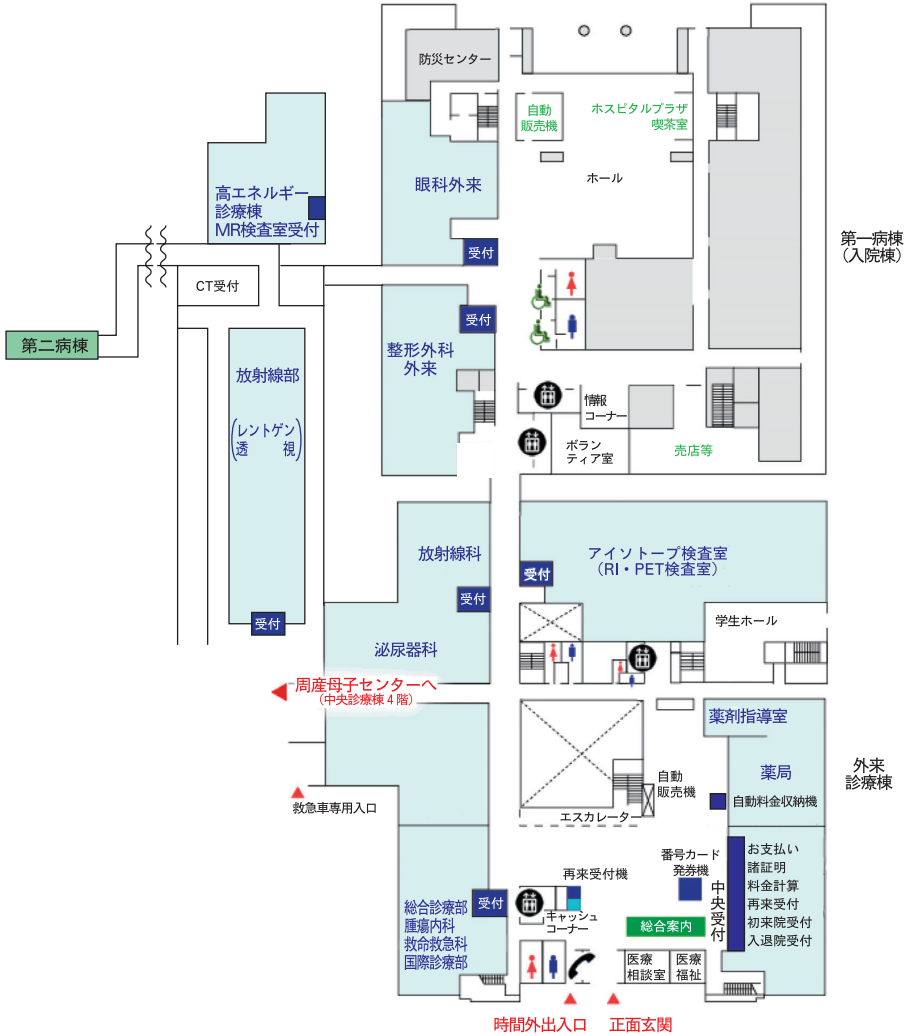
■ 休診日

土曜日・日曜日・祝休日・年末年始

(12月29日から1月3日)

病院内 案内図

1階



2階

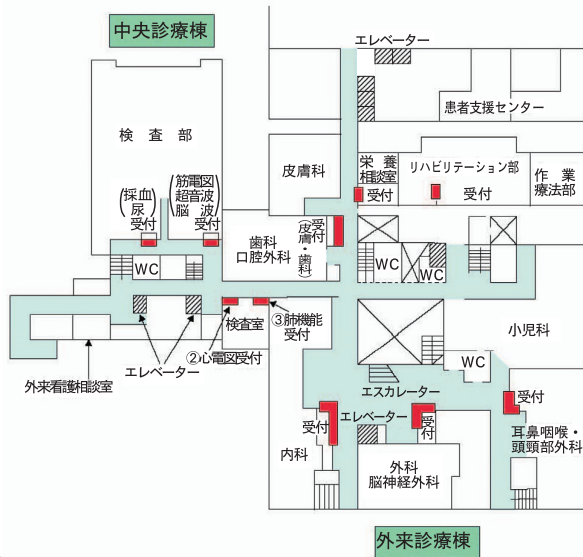
- * 循環器内科
- * 腎臓内科
- * 呼吸器内科
- * 免疫内科
- * 消化器内科
- * 糖尿病・内分泌内科
- * 老年内科
- * 神経内科
- * 血液内科
- * 漢方内科

は内科受付にお越しください。

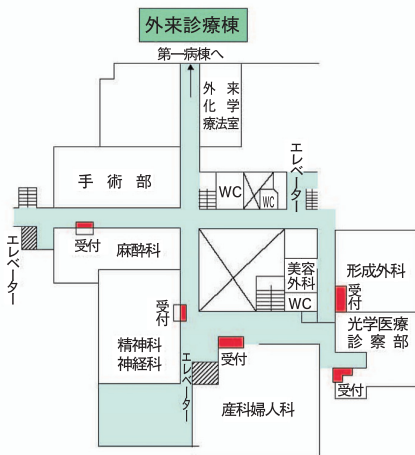
- * 食道胃腸外科
- * 乳腺内分泌外科
- * 肝胆膵外科
- * 心臓血管外科
- * 呼吸器外科
- * 小児外科
- * 脳神経外科

は外科、脳神経外科受付にお越しください。

遺伝子診療部は小児科受付にお越しください。



3階



発行：神戸大学医学部附属病院

〒650-0017

神戸市中央区楠町7丁目5番2号

電話〔078〕382-5111（代表）

ホームページ

<http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/>

ご意見，ご感想をお待ちしております。

FAX〔078〕382-5050